

佳作

ありがとうピピン

岡山県倉敷市立大高小学校二年 上田 航大

今年の七月十一日に、ぼくのかっていた犬がしんだ。名前は、ジジ。とても人なつこくて、やさしい犬だった。ジジをおもい出したらなみだが出る。だけど、ジジをわすれないためにも、なきながらも、これを書くことにした。

ひょうごけんでジジは生まれた。生まれつきしんぞうに四つのしっかんがあるびょう気をもっていた。犬のおばちゃんは、びょう気のある犬は、ゆずれないと言った。手じゅつもできないし、いつしぬかわからないと言っていた。かぞくてたくさん話し合っで、びょう気があってもその犬をかうことにきめ、ゆずってもらった。おとうさんとおかあさんは、いのちのべんきょうだよと言った。ちゃんとせわをするやくそくもした。いつしぬかわからないけど、かぞくみんなでさいごまでめんどうをみるとかくごを

きめた。

ジジがさびしくないように、もう一ぴき犬をかった。モコという名前だ。ジジはモコといっぱいあそんだ。二ひきでるすばんもした。休みの日には、いっしょにキャンプやりょこうにも行った。車の中でいっしょにねたりした。ジジとモコのおもい出がたくさんできた。

ジジには、えさをたくさんあげれなかったし、うんどうもあまりさせてはいけなかったけど、びょう気がうそのようにげん気だった。ジジとモコとずっといっしょにくらせるとおもっていた。だけど、ぼくが学校からかえったら、ジジはしんでいた。ジジがしんだあさ、ぼくがえさをあげた。だっこをして、そとにも行った。ぼくは、かなしくて、いっばいいっぱい泣いた。なみだがとまらなかった。まだ、一さい九かげつなのに、あまりにしぬのが早くてきゅうだったのでびっくりして、かなしかった。

おねえちゃんもない。おかあさんもない。ぼくもない。つぎの日のあさ、みんなの目がパンパンにはれていた。ジジがしんで、たくさんの人がジジのおわかれにきてくれた。たくさんの花でジジがかこまれた。ぼくは、ジジは、こんなにもあいさ

れていたんだなどおもった。

ジジが生きている間、かぞくでたくさんわらって、たのしかった。ジジのせわをすることで、犬をかうたいへんさをした。ジジがしんで、かなしくてむねがくるしかった。モコも一ぴきのこされて、さびしそうにしている。ぼくは、ジジのぶんまでモコをせいっぱいかわいがろうとおもった。

ジジ、びょう気でくるしかったね。ぼくのかぞくでいてくれてうれしかったよ。今までありがとう。いのちのたいせつさのぶんきょうができたよ。ジジとのおもい出をわすれないよ。これからも空から見まもっていてね。